

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的 に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 基本リテラシーとしての学力に優れた学生を確保する。	→入学人員対募集人員の比率。競合する大学の学部との勝敗率。	B
2. 国際文化吸収、日本文化発信のできる学生を確保するため、A0入試、指定校入試で学力担保を重視する。	→A0入試、指定校入試で入ってくる学生について英語の一定の評定平均値を確保。	B
3. A0入試において社会性を持つ学生を選抜することを重視する。	→社会貢献、人間関係力の表れとなるNPO、ボランティア活動、学校運営への参加者のA0入試での合格者数。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目5.0.1	(方針) 全般として受け入れ方針の明示に基づき適切に学生を選抜することを指針とした。 (現状説明) どの入試形態も概ね受け入れ指針は明確である。入試種類ごとに入学者の成績調査を実施し、指定校の取り消しや新規指定校の選定等に利用している。関学独自方式による入試を実施し英数を得意とする応募者へのメッセージを発信した。入学者に占める一般入試(大学入試センター試験)の割合は、08年49.8%、09年48.7%、10年46.3%と減少している。一般入試の割合のこの傾向についての得失の検討を要する。
☆ 小項目5.0.2	(現状説明) 受け入れ指針に基づき論文試験、面接等適切に行なわれた。さらに独自方式センター併用型(数学)の採用を決めて、当該科目の得意な能力を発揮できる学生を募集しようとしている。指定校について新規校2校の追加を行った。
☆ 小項目5.0.3	(現状説明) 募集人員と入学人員はほぼ一致した。10年現在、収容定員2,600人に対して在籍学生総数2,803人で適正範囲である。
☆ 小項目5.0.4	(現状説明) 概ね適切であるがA0入試の社会性重視については方針ないし運営上刷り込み可能か検討中である。
☆ その他	

## 《特定6項目データ》

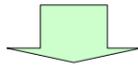
本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学部】		単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	57.8%	57.1%	49.8%	48.7%	46.3%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
指標2	志願者総数	人	7,647	7,949	7,979	6,823	6,285	
指標3	志願者倍率	倍	11.8	12.2	12.3	10.5	9.7	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	%	—	—	—	—	—	近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	A0入試における第1次選抜の実施、関学独自方式入試の方針の発信。
小項目5.0.2	指定校の例年の練り直し、指定校、提携校、協定校についての厳正な面談による人物見極め。障がいのある受験生への平等性の確保。
★小項目5.0.3	各種一般入試の歩留率の正確な予想による募集定員と入学定員との一致。
小項目5.0.4	例年4月に定期的に指定校入れ替えを当該委員会へ諮問、その他随時諮問を実行。
その他	



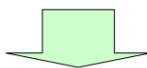
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	方針について学部説明会を通じた広報活動。
小項目5.0.2	A0入試における発表型口頭試問における人物のより厳正な見極め。指定校訪問による警告の意味理解の徹底に向けて努力中。
★小項目5.0.3	引き続き、一般入試については受験生動向等の事前情報の分析の徹底に基づく歩留り率の正確な予想。
小項目5.0.4	引き続き、各種入試については実行時に問題点を分析し必要に応じ検討するよう努力中。
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	偏差値維持による競合大学学部に対する高い勝敗率確保。一般入試以外の各種入試における成績の評価方法の提示。
小項目5.0.2	協定校、提携校からの入学生の学力、特に基本的リテラシー能力維持施策の検討。
★小項目5.0.3	充足率過剰の場合の入試後の教育対応を図ること。
小項目5.0.4	各種入試の問題点を定期的総合的に検討。
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	一般入試の特にA日程の合格者絞り込みを検討。一般入試以外の各種入試においては、応募資格に評定平均値を設定するのみならず、学力担保のための適切な検査の形態を検討。
小項目5.0.2	従来全員合格であった関学クラスを持つ高校に対して人物像評価により不合格もあり得ることのより一層の協議。
★小項目5.0.3	特に充足率過剰の場合の1年生少人数演習科目運営法の勘案。
小項目5.0.4	各種入試の実施時の問題点の関連委員に対する供与と検討の間隔を細かくする施策の勘案。
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他  
(自由記述)

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】  
○一般入試入学者比率が全学方針に反して3年続けて5割を切っており、記述にもある通り、その影響についての検討・分析が求められます。

【学内委員】  
○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のこととわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。  
○小項目5.0.1の(方針)は、方針そのものを記載してください。  
○個々の入試についてのアドミッション・ポリシーは設定されていますでしょうか。  
○小項目5.0.3の説明は全体のもので、個々の入試形態についてはわかりません。説明をお願いします。  
○小項目5.0.4の「・・・方針ないし運営上刷り込み可能か」の表現がよくわかりません。  
○効果が上がっている事項、改善すべき事項のいずれについても、どのように効果があがっているのか、どのような問題があるのか、記述だけではわからないところがあります。現状説明でも記述がありませんので、外部者にもわかるような記述をお願いします。  
○小項目5.0.4の現状説明は「定期的な検証」についての説明になっていません。「効果が上がっている項目」「改善すべき項目」のなかで、文意不明確な箇所があります(ex. 「指定校訪問による警告の意味理解の徹底…」/「各種入試の問題点を」⇒問題点の?/「勘案」という用語は適切か?)ので、更なる推敲をお願いします。  
○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「4. 学生の受け入れ ③学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である」「同、④学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である」については、それぞれ助言や勧告の対象値が示されています。絶えず確認し遺漏のないようにお願いします。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

アドミッション・ポリシーに関しては、一般入試は、各々科目が異なるものの、社会の連携の強化の下でグローバルな課題の解決のできる学生を入学させるべく、本学の原点である“Mastery for Service”の精神を社会のさまざまな分野で活かす学生の入学を求める。また、今日の商学部の学びの伝統を体現し、常に問題の本質を問い、論理的考察力と多面的視点から物事を的確に判断する能力を持つ者の入学を求める。特別選抜の内、指定校推薦入試は、学業と課題活動に優れた実績を持つ者を対象とする。スポーツ推薦入試は、スポーツ活動において優れ、学業と課外活動との両立の意欲を持つ者を対象とする。AO入試は、創造的、積極的な学習姿勢、真に創造的な能力を有する者を対象とする。帰国生徒入試は、海外での多様な経験を持つ者を対象とする。外国人留学生入試は、世界各国・地域において多様な経験を持つ者を対象とする。特別選抜については総じて、文武両道はもちろながらそれぞれの入試では多様な経験を大学生活に活かす学生の入学の促進をアドミッション・ポリシーとする。

改善の実績に関して具体的に示せば、従来型の関学独自方式に加えて関学数学併用型を検討し、2011年度入試から実施することに決定した。理科系志向の国立型の併願受験生から優秀な学生の志願増加の効果を見込んだ。特別選抜では、アドミッション・ポリシーに従って入学者を決定した。特記すると、指定校推薦入試では例年通り2009年度にも指定先の高校を入れ代えないし入れ代える前の警告を行ない、入学者の質の保証に効果を上げた。スポーツ推薦入試では、商学部独自の入学前教育を検討した。

AO入試では面談の実施体制に意を注ぎ、例えば事業経営を志向する者が単に思い付きや事業継承者であるだけに留まらず商学を学ぶに相応しいかを見極め入学者の質の保証に効果を上げた。なお、特別選抜の内、AO入試については入学者全体の質の上昇の為に人数の再検討をするべく検討中である。

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保—入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

<個別的な指標>
